

平成23年10月18日

三代目相互館の名称「相互館 ^{いちいちまる} 110タワー」に決定！
～京橋交差点に大正・昭和のランドマーク「第一相互館」を彷彿させつつ、
最先端の賃貸ビルを建設～

第一生命保険株式会社(社長 渡邊 光一郎)は不動産投資の一環として、東京都中央区京橋にある「第一生命相互館」(※)を解体し、同一敷地として2度目の建替となる賃貸ビルを当社創立110周年にあたる平成24年6月末完成を目指して建設中ですが、この度、三代目の「相互館」となるその名称を「相互館 ^{いちいちまる} 110タワー」とすることを決定しました。

三代目相互館の特徴としては、帝都のランドマークであった初代の「第一相互館」(※)(前本社ビル)を彷彿させる尖塔のあるレトロな外観である点、最先端のテクノロジーを駆使し、免震構造を導入するなど安全性を兼ね備えている点などが挙げられます。また、110(いちいちまる)には110周年の意味とともに、次の110年を意味し、まさに世紀を超える思いが込められています。

東京都中央区の地区計画に基いて、オフィスのみならず、ショールーム&ショップ、飲食施設等多様な用途が複合する三代目相互館は、変貌著しい京橋交差点の環境形成に貢献するとともに、初代相互館において、当社創立者矢野恒太が提起し話題となった本邦初の「足元商店街付の事務所建築」の再来であると考えています。

なお、「第一相互館」が遺作となった建築家、辰野金吾が手がけた代表作として知られる東京駅(中央停車場)も同じく平成24年6月に復元完成の予定です。この2つのランドマークは、1世紀を超える年月を経て、同時期に復活することになります。

当社では、「いちばん、人を考える会社になる。」というグループビジョンのもと、「新生涯設計」～すべてのお客さまに、私たちすべてが、すべての接点で、「一生涯のパートナー」～のコンセプトにもとづき、幅広く、お客さまとの接点を広げお役に立てるよう取り組んでいます。不動産投資という社会との接点においても、より一層取組みを強化してまいります。

(※)「第一相互館」は、1921年竣工。一代目の相互館。近代建築の先駆者である辰野金吾博士、最後の作品であり、当社本社も入居した物件。1969年に解体された。

「第一生命相互館」は、1971年竣工。二代目の相互館。賃貸オフィスビルとして機能し、2009年に解体された。

＜相互館 110タワーの計画概要＞

所 在 東京都中央区京橋三丁目1番
規 模 地下3階・地上12階・塔屋1階
構 造 鉄骨造(柱CFT)、鉄筋コンクリート造、免震構造
延床面積 約24,800㎡

＜完成予想図＞

